

保健環境研究所だより

もくじ

- ・ 京都府保健環境研究所が新しくなります（その4） P1
- ・ 知っていただきたい研究所の業務 P2
- ・ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について P2～P3
- ・ 「夏休み体験教室」参加者を募集します P4



No. **118**
令和元年6月

京都府保健環境研究所が新しくなります （その4）

京都市伏見区に位置する保健環境研究所は、築後40年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでおりました。また、京都市中京区に位置する京都市衛生環境研究所も同様の状況であり、行政の効率化を図るため、平成26年、現在の保健環境研究所の敷地内に、府市共同整備による新しい研究所を建設することが決まりました。

その後、整備基本計画等の策定を経て、令和元年中の竣工、移転、業務開始に向け、現在、着々と新築工事が進んでいるところです。

新研究所は、京都府における健康危機対応、環境保全対策の拠点として、また、放射線監視センターとしての役割を果たすことを念頭に、京都市衛生環境研究所との連携も強化することとしています。

また、新研究所開設を視野に、今年度から、庶務課を企画連携課に改めるとともに、環境衛生課を再編し、企画連携課、細菌・ウイルス課、理化学課、大気課、水質・環境課の5課体制としました。



工事の足場が撤去されました



内部工事も進んでいます

（令和元年5月撮影）

知っていただきたい研究所の業務

当研究所で実施している業務のなかで、今まで取り上げることの少なかった専門職員派遣、調査研究及び研修指導について紹介します。

○ 専門職員派遣について

保健衛生、環境分野に関連したテーマについて、当研究所の職員が直接出向き、説明やアドバイスを行っています。職員等の派遣費用については無料ですので、ご希望があればご相談ください。

講座内容（一部抜粋）

☆感染症の予防

（ノロウイルス、インフルエンザウイルス）

☆健康食品や医薬品

☆飲料水と健康

☆水生生物調査

○ 調査研究について

府民のニーズに即応した幅広い視野と先見性に基づく調査研究を実施しており、研究成果を年報としてまとめ、年度毎に発刊しています（最新版は第63号）。ホームページにも掲載されており、語彙も含めて専門的な内容となっていますが、ぜひ一度ご覧になってください。

○ 研修指導について

保健所職員の検査技術力の維持・向上のため、年に数回研修会を実施しています。また、保健環境行政に関わる技術的な課題について、大学等の教育機関からの講義・実習、講演等に関する依頼に積極的に対応しており、京都府立大学生、京都府立医科大学学生を対象とした実習や公衆衛生獣医師の体験実習を実施し、講義や施設見学に加え、試験検査についても体験していただいています。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS）とは、発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を主な症状とし、時に腹痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う病気です。血液を調べると、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇がみられるのが特徴です。潜伏期間は6日～2週間、致死率は10～30%程度です。

原因となるのはSFTSウイルス（ブニヤウイルス科フレボウイルス属）で、このウイルスを持つマダニを介してヒトに感染することが多いです。マダニがヒトを吸血することで直接感染するほか、マダニに吸血された野生動物や犬猫などのペットがSFTSに感染し、その動物から体液を介してヒトへ感染することもあります。また動物自身もSFTSを発症することが知られています。



○ 国内・京都府での発生状況

全国では西日本を中心として SFTS が発生しています。これまで全国で SFTS によって 65 人が亡くなられていますが、そのすべてが 50 歳以上の方でした。京都府では、2013 年より計 6 人の患者が報告されていますが、いずれも 70 歳以上の方でした。府内では現在のところ死亡例はありませんが、今後、発生が懸念されているところです。

※当所では、医療機関から搬入された SFTS 疑いの検体について遺伝子検査（PCR 検査）を行っています。

京都府内における SFTS 患者報告状況および検査実績
(2019年5月21日時点)

年 度	2016	2017	2018	2019
検査実績 (件)	1	6	8	1
府内報告 (件)	1	1	2	0
全国報告 (件)	60	90	77	18

○ 治療・予防

治療法がまだ確立されておらず、対症療法となります。

医療機関での早期診断・早期対応が重要です。

● 予防 1 マダニ対策

マダニに咬まれないことが大切です。草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用し、肌を露出しないようにしてください。マダニに対する虫除け剤も有効です。野山に入った後は入浴し、マダニがついていないかチェックしましょう。吸血中のマダニは医療機関で取り除いてもらってください。マダニは SFTS ウイルス以外のウイルス等も媒介するため、他の感染症も防ぐことができます。



フタトゲチマダニ（マダニの一種）

● 予防 2 動物との触れ合いに注意する

知らないうちに動物についたマダニや、SFTS に感染した動物の体液に触れてしまうことがあります。

野生動物に素手で触れることは避けましょう。またペットであっても口移しをするなど過剰な触れ合いはやめてください。



